

まくいかなかったと言う。彼女もAC的な側面を持っているが、ここでは魅力確認系として取り上げている。

<データ4>

チェ：(中略)あの、(私は)好きじゃない人から思われるという感じのタイプだったもんで、恋愛が成立したことがなかったもんで、自分に自信が持てないんですね。だからまあ、お愛想でも「かわいい」とか言ってもらえたりするのがすごくうれしかったりするということが…

筆者：男の人から、女性として見られるっていうことを求めているんですかね？

チェ：そうですね、はい。

(1998.3.20 収録)

3-2 快楽系

欲望肯定型である快楽系とここで名付けた類型は、援助交際において自己の性的な部分を売買することに対して、物質的・肉体的・精神的に喜びを感じるという女性たちのタイプを表現する言葉である。彼女たちは、端的に言えば「エッチもできて、お金ももらえてラッキー」というタイプの女性たちである。週刊誌やテレビ報道に見られる援助交際女性のイメージは、このタイプに沿っている。これに女子高生という属性を加えれば、世間に流布する一般的な援助交際女性のイメージとなる。このタイプの女性は、私の取材においては39人中9人、2割強いる。

34歳のOLであるトシミは、援助交際の動機を次のように話してくれた。

<データ5>

筆者：(援助交際するために使用する)伝言(ダイヤル)に何を求めているんですか？

トシミ：あのね、マニュアル通りの、模範生的なこと、模範的な答えは、男が一番納得する答えは、まあHがしたいなあとか思ったから。だけど、Hをするだけだったら、いろんな人から返事が来るからね、援助交際って言ったら、お小遣いももらえるし、身体の快楽も得られるからおいしいでしょう、とか

言って、同じ会うんだったらおいしい方がいいから、援助交際がいい。そういう理由をつけるの。そしたら(男性は)100%納得するの。

(1998.1.6 収録)

トシミは、この後に本当の動機を語ってくれたが、「エッチができて、その上お金をもらえる」というのは、彼女が援助交際をしている理由を尋ねる男性への答えとして彼女が用意しているものである。しかし、このメッセージは男性たち一般への援助交際女性の用意された答えであると理解してよい。男性にこう語ることによって、援助交際女性は男性たちが抱えている「セックスが好きでやりたいだけなのに、その上お金までもらっている」というイメージに沿って答えている。このイメージには、「女は(一般に)淫乱でどん欲だ」とか「結局女は男にやられてうれしいんだ」と思うことによって、男性側の性的な志向につきまとう心理的負担を軽くする効果がある。というのも、援助交際で買う側にある男性に限定して言うならば、女性器への男性器の挿入を行う性行為をするために、男性は女性に通常、金額にして2-3万円の金銭を支払う。男性の女性にお金を払ってでもやりたい、そうでないといられないという情けない自分というマイナスの自己イメージを、「セックスが好きでやりたいだけなのに、その上お金をもらえる」という女性のイメージは軽減する。さらに援助交際においては、性的弱者は男性側であることが多いという状況は、このイメージを抱く男性の心理的負荷を軽減する。「セックスが好きでやりたいだけなのに、その上お金をもらえる」という女性のイメージは、「セックスだけでも十分満足すべきなのに、その上お金をせびらないと股を広げない、淫乱で浅ましい女」というイメージに直結するために、買う側の男性側は売る側の女性をそのように位置づけることによって、売る側の女性よりも優位に立てたかのように思えるからである。

援助交際において買う男性側のイメージにもかかわらず、現実にはここで快楽系と名付けた「エッチもできて、お金ももらえてラッキー」という女性は意外と数少ない。25歳の専業主婦である